

# K.I.T.虎ノ門大学院 シラバス 2012 - 知的創造システム専攻

※ 欠席・遅刻する場合は、事前相談/連絡を徹底してください。(連絡先: 虎ノ門事務室[メール or 電話])

※ 授業中の食事は控えてください。また、携帯電話をマナーモードにするなど、受講するにあたってのマナーをお守りください。

科目名		区分/コード	単位数	VOD 閲覧	開講期
コンテンツ法務特論 II		主要科目 8696	1	学内 のみ	4期 (後学期)
Advanced Contents Legal practice II					
担当教員名	メールアドレス	連絡方法/オフィスアワー			
田中康之 仲村隆藏	-	メールアポイントにて			

## 関連している科目(履修推奨科目)

コンテンツ法務特論 I	インターネット法務特論	知的財産評価特論
著作権法特論/応用特論/政策特論	商標法令特論1・2	民法特論 I・II

## 授業の概要と到達目標

### 授業の主題と概要

コンテンツ流通はデジタル化により促進され、多様なウインドウ(媒体)で視聴されている。一方で、コンテンツは「権利の束」であり、不法な流通が後を絶たないのも現実である。経済的価値を維持するには創作の時点であるアーリーステージから、初回利用、二次の利用まで法的保護を受けながら流通するようにマネジメントする必要がある。特論 II では、コンテンツのマネジメント手法の応用編として課題解決を通じて、知的財産としてのコンテンツの保護と流通について学ぶ。

講義の形式としては、社会人を対象とした大学院講座であるので、ソクラテスマソッドによるインタラクティブで進める。受講生がコンテンツ事業に直接関わってなくても、ビジネスモデルを理解できるように受講生の理解度に合った課題に取り組めるように配慮する。

1. コンテンツの資金調達については、調達手法からファンド・財務までの講義内容を予定。
2. 特論 II では、知的財産法によるエンフォースメントやリスクマネジメントおよびコンテンツ評価を学習範囲とする。
3. 講義期間中に、マネジメント手法について事前調査発表を課題とする。
4. 本講義のまとめとして、「私のコンテンツマネジメントプラン」を企画してプレゼンテーションを行う。

### 到達(習得)目標

コンテンツ産業における多様なウインドウの専門知識の修得と、第一線で活躍されるゲストスピーカーと講師とのチームティーチングを通じてコンテンツを多様なプラットフォームでマネジメントできるコンテンツプロデューサーを到達目標とする。

### 受講対象者

コンテンツ事業に興味があり、現在または、将来関わる方、および DCM 技術によりデジタル社会基盤の構築を研究テーマとする院生。著作権法関連及び商標法関連科目を受講していることが望ましい。特に、専修科目「杉光ゼミ・市村ゼミ」所属院生の履修を推奨する。

## 履修上の注意事項やアドバイス

※「コンテンツ法務特論 I」の応用編であるので連続履修することが望ましい。また、著作権法、商標法の履修をしていない受講生は、事前講習を準備している。BA 専攻の「メディア&エンタテインメント」科目の内容と重複を避けるために、本講義ではコンテンツプラットフォームのマネジメント能力を持つコンテンツプロデューサーの育成と研究論文支援のために学術的なアプローチを行う。よって、コンテンツ分野を研究する院生は多様な視点を持つために関連講義を並行して受講することを推奨する。

本講義は、1講座2コマ連続で休むと2回欠席となるので要注意。

※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位取得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。

※ 本科目は、2コマ連続クラス(180分×4日間、合計8コマ)で構成する。開講日程に注意すること。

## コンピテンシ修得目標

知識領域(Y軸)	ヒューマンパワー(Z軸)		思考プロセス(X軸)	
Y 1: 基盤法令・テクノロジー	Z 1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y 2: 応用法令・実務・テクノロジー	Z 2: 独創力	○	X2: 構想	○
Y 3: グローバル法令・実務	Z 3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y 4: マネジメント	Z 4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	○
Y 5: 戦略立案	Z 5: 変革推進力	○	X5: 変革	
Y 6: 標準化	Z 6: コミュニケーション力		X6: 導入・運用	
-	Z 7: リーダーシップ力		X7: 評価・検証	○
-	Z 8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	○

プラクティカム		
イベント/ケース	教育技法	マテリアル/ツール
1 <b>【演習1】CE[具体的行動]</b> 講義についての感想ミニレポート(講義の要旨・感想) ⇒プラティカムシートの「ログ」に相当	講義終了当日に提出する	教員・ゲストスピーカー講義
2 <b>【演習2】アクションラーニング</b> ウインドウ調査・研究レポートの作成 ⇒エビデンスの「プラティカムシート」に相当	講義開始時に発表する	教員・ゲストスピーカー講義および、自己調査・研究
3 <b>【演習3】アクションラーニング</b> コンテンツマネジメントプラン企画・立案・発表 ⇒エビデンスの「ベストプラティカムシート」に相当	指定日までにメールにて提出する	学習内容および自己調査・研究資料

評価の方法		
(総合評価項目と割合)		評価の要点
出席・プロセス(発言)【演習1】	20%	1. 【演習1】コンテンツマネジメントに必要な基礎知識を習得しているかを出席・学習プロセス・感想レポートで評価する。 2. 【演習2】コンテンツの調査・研究成果を評価する。 3. 【演習3】事例研究課題であるコンテンツマネジメントプランを評価する。
感想ミニレポート(理解)【演習1】	20%	
調査・研究個人発表【演習2】	30%	
企画・研究発表【演習3】	30%	
合計	100%	
テキスト、参考図書 など		備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください ※		
テキスト (購入が必要)	特に指定しない	オリジナル資料を使用する
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	「アーリーステージ知財の価値評価と価格設定」菊池監訳(中央経済社) 「コンテンツビジネス・ハンドブック」中央青山監査法人(中央経済社)	講義では使用しないが、受講事前準備として理解しておくことが望ましい
参考URL		
<b>【コンテンツプロデューサー育成カリキュラム】</b> コンテンツ産業の要となるプロデューサー人材の重要性に鑑み、平成15年度経済産業省委託事業として、国際的ビジネスプロデューサー養成のために必要とされる知識・ノウハウを体系化した、「プロデューサーカリキュラム」。 <a href="http://www.meti.go.jp/policy/media_contents/index.html">http://www.meti.go.jp/policy/media_contents/index.html</a>		

ゲスト講師は(予定)である為、変更する場合があります。2コマ(90分+90分)連続の4日間構成なので、開講日程に注意すること。

週	学習内容		事前準備	担当者	時間
1	<b>コンテンツの保護</b> <キャラクタービジネスと違法商品撲滅への取り組み> ・グローバルなコンテンツビジネスと知的財産としての保護の実務を理解する		事前リサーチ【演習2】	田中 仲村	180分
11/12	イベント				
2	<b>コンテンツ創造支援</b> <コンテンツファイナンス>【演習1】 ・コンテンツの資金調達入門から投資家の視点を理解する		事前リサーチ【演習2】	田中 仲村	180分
11/26	イベント	ゲスト予定:仙石実氏(AK) パートナーズ共同事務所)コンテンツファイナンスに詳しい公認会計士			
3	<b>コンテンツリスクマネジメント</b> <著作物のリスクマネジメント>【演習1】 ・コンテンツに関わる法務リスクマネジメントを体感する		事前リサーチ【演習2】	田中 仲村	180分
12/10	イベント	ゲスト予定:三好陽介氏(NEC 日本電気株式会社 技術・知的財産渉外部 マネージャー) 知財交渉と法務リスクマネジメントのエキスパート			
4	<b>★13:00~16:15にて開講★</b> <b>課題発表【演習3】</b> ・コンテンツマネジメント特論で学んだ知識および修士論文・リサーチペーパーの研究資料から、「私のコンテンツマネジメントプラン」を企画する		事前リサーチ【演習2】	田中 仲村	180分
12/24 祝日	イベント	まとめ講義Ⅱ			

学習内容やスケジュール等、状況に応じて、一部変更・改善が生じる場合もあります。  
 講義収録は、特別講師を招く場合を含め、事情によっては収録できない場合もあります。  
 予めご了承ください。

専任教授 確認記録欄
確認者氏名: 加藤、杉光